



茶の都りぬ 猪

~ 4  
1466





しつとていひて、拾遺集のちびり、おあつちしつとていひての  
後撰集乃どみぢりよに、あつちしつとていひて、おあつちしつとてい  
此集成りし人、あつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
むさふぢりよ、あつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
改見おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
そのよう、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
よう、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
さて、今、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
—として、又、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
あり、—として、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて



一の巻 春舞上

たつ人のちぶあひのあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
よつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて

おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて  
おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて

○ 記も、雄略志にもおあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて、おあつちしつとていひて

嗚るは時を知らせるせしむるに似たりと云ふはよく侍られた。

兼盛院の長徳ののみこ

梅の花今ハさわりおぼりぬらん一よき一人乃おつとせよ

けし一 記長を雄略片おぼはれはるもあまをいひまると侍

う人のあはれにひびくしけしうひま中おま一 昔おぼへて

さしづべ一

○兼備おぼの孫やのまふお梅をうめて侍はる三とせううの後

花咲く時おぼはれおまうわりのお女ごとも侍をうめてみよ

の由よりおぼはるしひかて侍はる

お梅の御代

またお梅おぼへしは花をわたりしはまもまがらうりてしはる

一の昔 け初ま今くまへしは初めしはるしはるしはるしはるしはる

二のまき 喜舞申

○おぼらうて伊勢がおもへしはるしはるしはるしはるしはるしはる

まき人あはれ

おぼらうておもへしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

けし一 伊勢おぼはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

おぼらうておもへしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

おぼらうておもへしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

おぼらうておもへしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

おぼらうておもへしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

○おぼのころおぼはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

おぼらうておもへしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

おぼらうておもへしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはるしはる

舞うの法



人の善い或は男は *man of good name* といふは *man of good name*  
たは *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
*man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

○ *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
け *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
*man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

*man of good name*

また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
此 *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
*man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

*man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

○ *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

○ *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*  
また *man of good name* といふは *man of good name* といふは *man of good name*

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

カ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

三條右大臣

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

三條右大臣

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

蘇系雅正

幸なれば  
 三日月のついであはれ人の作あへり  
 ひやうきも女のあはれあはれなるを

清くあはれ

月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ

月あはれ

○お月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ

清くあはれ

月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ

清くあはれ

月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ  
 月あはれ





あはれいへりおのむらみ

○月長雨のつゆ久〜〜綾はうまらる男れまできりあ  
はれにまへりよ

しむしむしなみゆりてふかきさかきけしむしきりなれら  
女のもれんすまらうさしむすらさきま〜〜あせかひはらう  
ま〜〜らるまゆりあはれきり〜〜してはかりは〜〜

伊勢

ほ〜〜よゆえりうらなるまゆりあてあ〜〜あもそめいあがめれつ  
女の〜〜らさく〜〜り〜〜まかちかひあひなむいなるに  
師尹頼房のま〜〜あ〜〜してはらる。あ〜〜まのあをきかて  
あちてはられは〜〜のあまついで内侍のかみ乃か〜〜り  
〜〜あはらる。

左政大臣

あはれ〜〜もきりれとあはれ〜〜もあはれは〜〜にあら〜〜りあ  
師尹信重信三の果のふえ内侍のうみろきり子也  
〜〜り〜〜回〜〜長女也。

月〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら  
えまひ〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら

清〜〜り

花もちあはれま〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら  
〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら

又の巻 秋上

○各月づから業お給位のも〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら  
秋上秋下〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら〜〜ら



あつちのつれづれに

よみかた

あつちのつれづれに  
○ 伊勢のつれづれに  
あつちのつれづれに

あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに

そのまゝ 新書下

○ 藤原雅正のつれづれに  
あつちのつれづれに

りせ

あつちのつれづれに  
○ あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに

年伊勢朝臣女

あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに

あつちのつれづれに

あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに  
あつちのつれづれに

わが恋はよき恋ぞしてあはれ

さきもよき恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞして

あはれし恋ぞしてあはれし

中ほこれおれをいふさるるもよき恋ぞしてあはれし

人の心もよき恋ぞしてあはれし

人の心もよき恋ぞしてあはれし

八の巻 恋の歌

○恋の歌などいふさるるもよき恋ぞしてあはれし

あはれし恋ぞして

批把丸丸

人は恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞしてあはれし

あはれし恋ぞしてあはれし

あはれし恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞして

あはれし恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞして

あはれし恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞして

九の巻 恋の歌

あはれし恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞして

あはれし恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞして

あはれし恋ぞしてあはれし

あはれし恋ぞしてあはれし人の心もよき恋ぞして

あはれなる御心

○あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心

○あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

○あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

○あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

Handwritten text in Kuzushiji script, consisting of several lines of cursive characters.

源信明源信明の書  
中勢  
Handwritten text in Kuzushiji script, including the name '源信明' and '中勢'.

十の巻 意壽二

○まかりおまかりおの書  
申将文衣

申将文衣

○まかりおまかりおの書  
Handwritten text in Kuzushiji script, starting with '○まかりお'.

平定文

○ああの書  
Handwritten text in Kuzushiji script, starting with '○あ'.

かきまへしきりてしるす

壬生忠実

まみのえれまのちかふるさつはのちかむすしよやまはなむすし  
○まむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし

源清経

はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし

藤原有文

はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし

はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし

はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし

よみ

はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし

はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし  
はのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすしはのちかむすし



~~~~~

○おもしろいおもしろいおもしろい~~~~~

平定文

~~~~~

○かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○おもしろいおもしろいおもしろい~~~~~

○又か~~~~~

~~~~~

~~~~~

十一の巻 意書三

○かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

本院侍位

~~~~~

~~~~~

~~~~~



○ 此の如く、  
...

○ 此の如く、  
...

○ 此の如く、  
...

○ 此の如く、  
...

○ 此の如く、  
...

批把丸大尺

○ 此の如く、  
...

○ 此の如く、  
...

○ 此の如く、  
...

とせむ。ふ。あ。け。は。な。ま。り。と。し。て。

藤原滋韓

ち。あ。る。神。ひ。き。く。ち。か。ひ。て。し。と。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

○下野が海よりはしる。 海中

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

十二の巻 慈哥也

○涿巨城が海よりなまあらし。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

男のあたまのきり。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

○いせが海より。 贈太政大臣

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

○海が海より。 あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

○海を政大臣。 あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。

海

あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。あ。ら。し。







此御書は下よりの御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

友系為世

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

敦忠朝長

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。

○此の御書は下よりの御書に似て居る。御書に似て居る。





Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the previous page.

Handwritten text, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text, possibly a list or a series of related items.

Handwritten text, possibly a list or a series of related items.

Handwritten text, possibly a list or a series of related items.

Handwritten text, possibly a list or a series of related items.

Handwritten text, possibly a list or a series of related items.

Handwritten text, possibly a list or a series of related items.

Handwritten text, possibly a list or a series of related items.

Small handwritten text or mark in the center of the page.

Main body of handwritten text on the left page, enclosed in a rectangular border.

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

○かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

○かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

○かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

○かゝるにやうな事がある事もある事がある

十四の巻 意哥六

○かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

○かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

かゝるにやうな事がある事もある事がある

○かゝるにやうな事がある事もある事がある



花の... 十月...  
○ ...

右近

○ ...

兼輔の長

○ ...

十又の巻 雜歌

○ ...

はら... 此中...

和名抄運歌小尔雅云其本...

璞注云莖下白莖在泥中者也 和名波知次乃波比

○ ...

○ ...

○ ...

○ ...

右唐門

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a personal note.

蘇系元補

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or record.

Handwritten text in a cursive script, starting a new section or entry.

Handwritten text in a cursive script, detailing an event or person.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific note.

Handwritten text in a cursive script, concluding the page's content.

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

中勢

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

兼補の

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

兼補の

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

三條右大夫のむすめは女侍

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○ 雅正の御書  
おしりし御書

おしりし御書

○ 男の御書

日本佛尊所中

おしりし御書

十六の巻 新哥二

○ おしりし御書

在東葉平朝臣

おしりし御書

○ おしりし御書

○ おしりし御書

おしりし御書

おしりし御書

おしりし御書

○ おしりし御書

おしりし御書

おしりし御書

おしりし御書

おしりし御書

おしりし御書







○ 花は花をたはしよるは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

後子

○ 花は花をたはしよるは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

後子

○ 花は花をたはしよるは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

○ 花は花をたはしよるは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

十七の巻 雑奇

○ 花は花をたはしよるは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

大補

○ 花は花をたはしよるは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

○ 花は花をたはしよるは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

~~~~~

大捕

~~~~~  
○~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

○~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

Handwritten text in Arabic script, top right section.

Handwritten header in Arabic script.

Handwritten text in Arabic script, middle right section.

Handwritten word in Arabic script, boxed.

Handwritten text in Arabic script, bottom right section.

○紀の女ははるる男はかろくをいふはるる女ははるる男はかろくをいふ

Handwritten header in Arabic script.

○Handwritten text in Arabic script, middle left section.

Handwritten text in Arabic script, bottom left section.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.

Handwritten text, possibly a section header or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, continuing the passage.

Handwritten text, possibly a section header or a specific phrase.

Handwritten text, possibly a section header or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, continuing the passage.

Main body of handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or a short story. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous block.

十八の巻 雜書四

○ 廿の巻 雑書四  
Handwritten text in a cursive script, starting with a circled character '○'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous block.

○ 廿の巻 雑書四  
Handwritten text in a cursive script, starting with a circled character '○'.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous block.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous block.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous block.

○ 廿の巻 雑書四  
Handwritten text in a cursive script, starting with a circled character '○'.







Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written vertically and includes several lines of characters.

蜀旅

たうれ

Handwritten characters, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or letter from the previous page.

Main body of handwritten text in a cursive script, occupying most of the page. It appears to be a detailed account or a long letter.

今と帥の

時

大原の

典侍あ





片うおのこころれとわかれしはかたき  
かうたふさふさのこころれ禁じ

事居宣長

らた父のこころれ林。の流るる  
よりいよのこころれわかれ  
れかよとよあまのこころれ  
あまのこころれわかれか  
まのこころれわかれわかれ  
のこころれ乃よのわかれわかれ  
こころれわかれわかれわかれ  
ういりあまのこころれわかれ

奉りて申す。此の書は、  
 先づ、世に傳へし、  
 其の功徳、無量なり。  
 凡そ、此の書を、  
 讀み、其の意、  
 解す。其の功徳、  
 無量なり。

享和二年八月晦

本居春庭

須受能耶

藏板

發行

書肆

京都御幸町通姉小路上  
 同 三條通御幸町角  
 同 寺町通三條下  
 同 四條通御旅町  
 東京日本橋通一丁目  
 同 日本橋通二丁目  
 同 芝神明前  
 同 兩國横山町三丁目  
 大坂心齋橋通北久太郎町  
 同 心齋橋通安土町  
 同 心齋橋通博勞町  
 同 心齋橋通安堂寺町  
 尾州名古屋本町通七丁目

菱屋孫兵衛  
 吉野屋仁兵衛  
 著屋宗八  
 田中屋治兵衛  
 須原屋茂兵衛  
 山城屋佐兵衛  
 岡田屋嘉七  
 和泉屋金右衛門  
 河内屋喜兵衛  
 河内屋和助  
 河内屋茂兵衛  
 秋田屋太右衛門  
 永樂屋東四郎

